

# 京都 教育センター通信

【発行】京都教育センター事務局

〒606-8397

京都市左京区聖護院川原町4-13

京都府教育会館3階

TEL &amp; FAX 075-752-1081

ホームページ <http://www.kyoto-kyoiku.com/>

メール：kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp

## 「個人請願の組織化」のススメ

山崎 洋介  
(大阪大学助教、ゆとりある教育を求める  
全国の教育条件を調べる会会長)



請願とは、国や自治体などの公共機関に対し、一定の措置を求める意思を文書で伝える行為です。これまで請願は、労働組合や市民団体、政党などが請願書を作成し、それに賛同する方の署名を集めて提出する「請願署名運動」の形式が一般的でした。

しかし、この方法は組織力が弱く、多くの署名数を集められない場合、行政や議会で審議、採択を行わせる力を持てなかつたり、署名者の主権者意識がそれほど高まらない「お任せ民主主義」に陥つたりする懸念もあります。また、請願を組織する側にも、「みんなの願いを代わりに実現してさしあげます」といった「請負民主主義」的な取組にとどまつてマンネリ化し、民意を政治や行政に反映できない結果に終わつて、当事者の不全感、徒労感がつのる結果を招いてしまつてゐる傾向がみられます。

請願権は憲法第一六条により基本的人権の一つとして保障されており、誰でも、いつでも、どの機関に対しても行なうことができます。年齢や国籍、有権者か否かに

関係なく、子どもや外国籍の方でも請願書を提出する権利があります。したがつて、個人による請願を組織化するという方法も、有効な民主主義実践となり得るのでは

  
 ないかと考えています。百名分の請願署名を集めのではなく、百名の方の個人請願の組織化に取り組むのです。そのことが、行政や議会の民主化、主権者意識の向上、自治活動の活性化につながる可能性があるのではないかと期待します。

「ゆとりある教育を求める全国の教育条件を調べる会」では、2023年度から「学校における教員不足と長時間過密労働の解消のため、基礎定数改善による正規教員増を求める意見書」を地方議会に個人請願する活動を呼びかけ、現時点で北海道、秋田県、奈良県、高知県などの議会で採択されています。特に奈良市では、学校統廃合計画に対する請願書が、廃校対象校の小学生3名（うち1名は保護者が提出）から奈良市議会に提出され、議会審議にインパクトを与えました。

これらの取組の経験交流では、たとえ請願採択に至らなくても、請願すること 자체が、行政や議会を活性化させ、請願者自身の民主主義実践と主権者教育にもつながつていると報告されています。身近な課題に対して声を上げることが、より良い社会の形成に寄与すると言えるでしょう。

# 全国「教育のつどい2025」報告レポート —歌があつてよかつたね—

福知山市・小学校 山川 智美

24年度、小学校で一年2組33人を担任しました。

4月、いろいろな保育園やこども園、幼稚園からやつてきたこどもたちは、お互いに様子見て、事前に聞いていた情報どちがつて、割とおとなしく学習していました。

3階にある音楽室に上ることが嬉しく、そこで歌う歌は、楽しいと感じてくれたようです。

♪つくしがでたよ(4月)

5月、友達の名前をまだ覚えていない子がいるけれど、それぞれにかわりもできてきて、「黄色いズボンの子がわるぐちいつちゃつた。」などの訴えが増えました。

「ぼくは、まだ、字が読めへんのやで。」という子もいるので、いつもは歌詞を紙に書いて黒板にはつているのですが、ひらがなを覚えるまで、口移しで歌を渡すことにしました。

みんな私の口を一生懸命見ているので、新しい歌を渡すときはとても緊張しました。

♪もりのかじや(5月)

6月、勢いが出てきたこどもたち。ひらがなを学習したので、歌詞を書いて、読んでから歌い始めました。

♪いっぽんみち(6月)

休み時間には教室からだれもいなくなります。外遊びが大好き。

友達関係も広がり、遊びに行つてはもめて帰つてくることが多くなりました。

しかし、暑さ指数が高く、外に出られない日が続きます。

しかし、大好きな図書室は、貸出電子化の作業のため、閉鎖中。

教室で鍵盤ハーモニカをふいたり、自由帳をしたりして過ごしている子どもたちに、歌の中で元気に跳ね回つてほしいと思って、「ホップステップジャンプくん」を渡しました。

9月、夏休みを過ぎし、帰ってきたこどもたち。



7月の続きで元気に戻つてくるかと思っていたら、以外にも穏やかなスタートでした。

長い夏休みを知らない保育園、子ども園出身の子どもたちが多いので、また様子見をしていたのかもしれません。初日は歌声も様子見でしたが、次の日には学校の生活を思い出し、元気いっぱい跳ね回つていました。

比較的穏やかに過ごせたのは、あまりに暑い夏、始業式から2週間は運動会練習禁止令が出て、教師も、学校の雰囲気も、落ち着いていたからということもあります。

しかし、暑さ指数が高く、外に出られない日が続きます。

しかし、大好きな図書室は、貸出電子化の作業のため、閉鎖中。

教室で鍵盤ハーモニカをふいたり、自由帳をしたりして過ごしている子どもたちに、歌の中で元気に跳ね回つてほしいと思って、「ホップステップジャンプくん」を渡しました。

♪ホップ ステップ ジャンプくん  
はずむよ はずむよ(一〇月)



「♪ぼくはホップ ホップくんだ」で始まる歌、みんなすぐにホップ ステップ ジャンプくんになって歌い、歌声が跳ね回っているようです。

特に、小学校という枠にはまりきらないA君やB君は、自分の歌だとばかりに、ずっと口ずさんでいるくらい大好きになりました。わたしも、ピアノで子どもたちと一緒にとんではねて、とっても楽しく歌える歌です。

家庭環境が変わり、落ち着かなくなつたA君が、学校にいる間、ずっと友達の悪口を言つている状態が続きました。

賢くなりたいという思いをもつて、がんばっている子どもたちですが、私自身も振り回されることもあり、何かしらストレスを感じていたのでしょう。小さいことでいざこざすることが増えてきました。

ひとつひとつ、私が間に入って解決するのではなく、当事者同士、話をさせて、自分の思いを相手に伝えるようにしました。

意地悪をされた子も、言いたいことを相手に伝えて最終的に謝つてもらえると、自分で解決できたと思え、

いやな気持ちを引きずらないで次の活動に入ることができます。おとなしく見える子も、結構しつかり言うのに、驚いたり感心したりさせられます。

♪チボリーノの冒険(一一月)

♪カラスの歌(一2月 終業式の後)

歌声は明るく、子どもの心が自由に解放されているのを感じます。

「いやいやをおこしたり、仲直りしたりして、お互いのことを分かり合つことで関係も深まってきたのを感じます。

みんなで歌うことがとても楽しそうです。「かぶこさん、いちごさん…」のことばは、はじめのころは、ひとりひとりを確認しながら呼びかけています。うで、とてもかわいらしくなあと聞いていましたが、今ではよく知っている友達を呼ぶように言うようになりましたのも面白いです。

3学期になりました。

2学期はじまりのようなよそよそしさはもうなく、元気いっぱいのようになります。始業式の日からスタートすることができ、歌声も初めの音から飛び出しききました。

歌を歌うときには、まっすぐにこちらを向いて、ここにこと歌っています。歌があつてよかつたね、って思います。

「ブルッキーのひつじ」を、絵本を見せながら歌つて渡しました。じつと絵を見ながら耳を澄ませている子どもたち、集中が見えるようです。

長い歌なのですが一回目から子どもたちの声がかえつてきました。

文字をいつしょくけんめい追いながら耳に残った音を歌している子どもたちの集中力にびっくりしました。

♪ブルッキーのひつじ(一月 はじめて歌う)

それぞれの子どもたちが自分の声で、歌いたいように歌う声が集まって、ここにしかない歌声が生まれます。

同じ歌でも、その時によつて違つて聞こえます。ピアノを弾きながら子どもたちの顔を見ていると、「べんきょういやや」と言って、前の時間に授業に向かえなかつた子も、みんなの前で声を出すことに抵抗のある子も、歌を歌う顔はとても明るく、気持ちが集まつていることを感じることができます。

## 第56回京都教育センター研究集会

### 分科会要項

#### 1. 地方教育行政 〈公益事業室〉

- テーマ 「子どもと府民のための教育行政を問う  
—給特法改正後の京都府での教職員の  
働き方改革を検討する—」
- 基調報告 中野宏之（京都教職員組合）
- 報告 「城陽市学校現場の実態」  
松山成明（宇治久世教組）
- 報告 「教師の働き方改革と事務職員の仕事」  
奥村久美子（事務局）
- 報告 「京都府議会での論戦から」  
京都府会議員団から（要請中）

#### 2. 生活指導 〈202〉

- テーマ 「子どもたちの願いや生きづらさを聞き取り、支える—私たちを抜きに、私たちのこと決めないで—」
- 基調報告 恩庄 澄（研究会事務局）
- 報告 「学校は、私にとってどんな場所であったか」
- 報告 「悲しみを背負った少女」  
(京都市・小学校)
- 報告 「彼らとの3年間戦争」  
(京都市・中学校)
- 報告 「メイク・頭髪はどうあるべきか」(仮題)  
(京都府・高校)
- 報告 「自由の中で見えてくる『しんどさ』の正体」  
(京都市・高校)

#### 3. 学力・教育課程 〈203〉

- テーマ 「言語能力に焦点をあてた学力形成と学校現場の課題」
- 基調報告 鋒山泰弘（追手門学院大学）
- 報告 「タネをまいて耕そう！内言を豊かに」  
高橋智和（京都市・小学校）
- 報告 「国語『はじめてのごんぎつね』」  
加藤耕太（京都府・小学校）
- 報告 中学校（予定）

#### 4. 子どもの発達と地域 〈302A〉

10:00～13:00

- テーマ 「誰もが共生できる社会をめざして」
- 基調報告 姫野美佐子（研究会事務局）
- 実践報告 「多様性と共生について」 小山民子

12月21日(日) 10:00～16:30

教育文化センター〈各室〉にて

#### 5. ワークショップ・生きぬくためのカウンセリング 〈205〉

- テーマ 「いろいろな制度は充実(?)してきたが、本当に生きづらさはなくなってきたのか」
- 報告 芦田幸子（研究会事務局）  
エンカウンターグループワーク

#### 6. 高校問題研究会 〈302B〉

13:00～16:30

- テーマ 「教職に魅力を取り戻すために…生きがいが持てる現場を」
- 今、教員のなり手が少なくなっていることが問題になっています。かつて教職は、魅力とやりがいのある職業と考えてきましたが、本当にそうなっているのでしょうか？教職員の働き甲斐、生きがい、悩み、困難などを、現場の先生方を中心としてパネルディスカッションを行います。

#### 7. 教科教育・国語 〈204〉

- テーマ 「『国語』の学習で、子どもたちにどんな『ことば』の力をつけるのか…」
- 基調報告 相模光弘（研究会事務局）
- 報告 「小学校2年『お手紙』」  
石澤雅雄（京都市つづり方の会）
- 報告 「小学校4年『ごんぎつね』」  
得丸浩一（京都市・小学校）
- 報告 高校「高校国語の観点別評価の実例」  
山上知明（京都市立高校）
- 報告 高校「『漢文』学習」  
九野里信夫（私立高校）
- 報告 「今夏の全国教育のつどいの分科会の特徴」  
得丸浩一・九野里信夫

#### 8. 障害児教育 〈301〉 13:00～16:30

- テーマ 発達を学ぶ講座  
「幼児期(1歳半ごろ)の発達」
- 講演 「幼児期(1歳半ごろ)の発達」
- 講師 白石正久さん（龍谷大学名誉教授）

**※報告内容は一部仮題で、報告者一部未定。**